

いざ祝え、50周年 The Day to Celebrate Our 50 Years



式典に勢揃いした来賓、サポーター、卒業生やコミュニティメンバー

9月16日、アジア学院は創立50周年の創立記念日を迎え、記念式典を喜びのうちに執り行いました。この祝いの日の様子をお届けします。

「おバカさん」は神と共に

山本俊正（理事長）

私の好きな小説に、遠藤周作の『おバカさん』（英題：Wonderful Fool）があります。主人公はガストンというフランス人で、日本の家庭に滞在します。ガストンは町にいる野良犬や野良猫を可哀想に思い、ホストファミリーの家に連れてきてしまいます。挙げ句の果てに遠藤と名乗る殺し屋と友達になり、危険を顧みずに遠藤を良い人間にしようと一生懸命努力します。彼の行動は常識では考えられないと映り、周りから「おバカさん」と呼ばれるようになるのです。この小説はドフトエフスキーの『白痴』をモデルにしています。もしイエスが現代にやってきましたら「白痴」または「おバカさん」と呼ばれることを想定しています。

イエスだけでなく、聖書の預言者は、八方破れで非常識な「Wonderful Fool」が多いのです。ノアは洪水の知らせを受け、地上に巨大な箱船を造り始めます。周りの人は、こんなに天気がよいのに何と非常識な、と思ったに違いありません。モーセはエジプトの多くの奴隷を救い出すことを神から命じられます。そんなこと一人のできるわけがないと考えるのが常識です。し

かしノアもモーセも、神が共にいてくださるという信仰を頼りに、この非常識を受け入れ、実行しています。

50年前、日本が高度経済成長に酔いしれている時、そして大都市以外では外国人がほとんど見られなかった時、アジア学院はこの地に誕生しました。農業技術の習得を最重要課題とせず、朝から夜まで共に働き・学び・食べ、有機農業による自給自足の生活を目指し、無謀とも思える研修をかたく実践しています。そしてこの50年間、30名程度の学生数は一切増やしていません。普通の学校経営者から見れば非常識な「おバカさん」経営者の学校かもしれません。しかしこの50年間アジア学院は、多くの関係者が神様から招かれ、「おバカさん」と思われるかもしれない夢と理想を掲げ、財政的困難を抱えつつ走り続けて来ましたが、数えきれない「Wonderful Fool」たちが伴走してくださり、何より神様が共にいてくださったからこそ存続することができました。

どうかこれからもアジア学院の目指す歩みを共に歩んでください。
（50周年記念礼拝「歓迎の言葉」より抜粋）

記念プログラム



ジョイス・レイ氏

記念プログラムはリベリア人の学生による歌と太鼓でスタートし、卒業生を代表して1976年のインド人卒業生、オルデンドゥー・チャタジー氏（開発調査コミュニケーションセンター (DRCS) 創立者）が、創立50周年の「共に学ぼう、農村の未来のために」というテーマに基づき講演をしました。「農村」の持つ意味、問題、可能性、アジア学院の取り組むべき課題などについて貴重な視座を与えていただきました（次ページ参照）。

また、長きにわたってアジア学院を財政的に支えてくださった17団体（当日欠席団体を含む）

に対する感謝状の贈呈、アメリカ人支援者で児童文学者のジョイス・レイ氏による俳句絵本『明日もみんなで「いただきます』』（英語原書題“Food for All Our Tomorrows”）の献本も行われました。最後は、アジア学院で長く校歌のように愛唱されている“Take My Hand”の作詞・作曲者クリストファー・グランディ氏（アメリカ人元ボランティア）のビデオメッセージに続いて、会場の全員で“Take My Hand”を合唱しました。

手作りのおもてなしで共に喜んだ

アジア学院創立50周年記念式典



9月16日(土)、アジア学院は創立50周年記念式典を、支援者や関係者、6か国からの卒業生など総勢260名を超える参列者と共に、祝福のうちに催すことができました。会場となったコイノニア食堂は色とりどりの衣装に包まれた多国籍の人々、多くの国の料理、祝いの歌やメッセージであふれました。アジア学院の50周年の歩みを感謝して、厳粛かつ賑やかに祝いのプログラムが守られたことを神様に深く感謝します。



記念礼拝

記念礼拝では、今年の学生たちによってヨハネによる福音書12章24節「はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」が英語、フランス語、インドネシア語、ビルマ語、ハウサ語（ナイジェリアの言語）、日本語の6つの言語で朗読されました。カナダ合同教会宣教師で前農村伝道神学校校長のロバート・ウィットマー牧師による説教では、神様の恵みによって「共に生きる」という精神が50年の間にどれほど大きな広がりをもって成長し、人々に喜びと恵みをもたらしたかという証がされました。



レセプション、その他

レセプションでは、アジア学院のコミュニティメンバーが、東南アジア、南アジア、西アフリカ、中央・東・南アフリカ、アメリカ大陸・ヨーロッパ・カリブ・オセアニア、日本の6地域に分かれてそれぞれの地域の料理をふるまいました。各ブースは個々の文化の装飾品で飾られ、学生とボランティアが心を込めて料理を提供しました。

教室や他のスペースを使った展示会場では、50年の歴史を語る多くの写真、卒業生などの活動報告やメッセージ、祝辞などが展示されました。

式プログラムのカバーは、今年の学生、ボラ

ンティア、スタディキャンパーたちが学院内で出た古紙に草花などを織り込んで漉いて手作りし、記念品にはアメリカ人ボランティアのラスティ・オーナーさんがデザインした50周年記念手ぬぐい、アジア学院産のお米、前述の俳句絵本が用意されました。

当日の気温は30度近くまで上がり会場は蒸し暑く大変でしたが、参列された方からは「メンバー総動員の手作り感あふれるアジア学院らしい式だった」などの感想を多くいただき、喜びあふれる時となったことを心からうれしく思っています。



ウィットマーご夫妻



荒川 朋子
校長



農村の価値を問い直す (抄訳)

オルデンドゥー・チャタジー
1976年度卒業生 (インド)
開発調査コミュニケーションセンター (DRCSC) 主事

持続可能な開発目標の達成は、農村の価値をどう評価するにかかっています。



主にアジアとアフリカの国々から来た1399人がアジア学院を卒業し、62カ国以上において、主に農業、教育、協同組合事業開発の分野で、様々なレベルで地域開発活動に従事しています。私たちは共に、今はSDGsとして知られ、アジア学院のモットー「共に生きるために」の下では長きにわたって大切にされてきた、持続可能な開発目標の達成に向けて取り組んでいます。

植民地支配と世界大戦の後のシナリオにおいて、このモットーは質素な生活、平和構築における相互協力人間の基本的ニーズを満たすことに重点を置きました。また、地球の平和の指標として、社会的公正と分配における正義を強調してきました。

「開発」をめぐる功罪

それから50年後、このモットーは、私にとってより深い意味を持つようになりました。戦後の50年間(1950〜2010年)、南アジア、東南アジア、アフリカ、南米の国々で、多くの「緑・青・白の革命」が起

りました。農業や畜産の生産は確かに急増しました。しかし同時に負債も増え、農民は栄養失調に陥りました。主に西欧、北米、オーストラリア、ニュージーランドにある少数の巨大企業が、種子や農業資材、機械の取引を独占しました。徐々に、中国、日本、韓国、南ベトナム、西インド、南インドなどの企業や多国籍企業もこの超高収益競争に加わりました。市場の拡大、貿易の自由化、知的財産権の保護を口実に、いわゆる後進地域や農村地域の開発という名目で、金融や貿易に関する規制や法律上の障壁が撤廃されました。

「都市工業モデル」による開発は、都市開発企業や金融機関の間で人気を博しました。これにより、職場や住宅地を建設・拡大するための安価な土地の必要性が高まりました。早く遠くまで届く輸送システム、巨大な倉庫が進歩の新たな顔となり、水、エネルギー、建設労働力などの必要性がますます高まりました。「農村(Rural)」は後進的で覇気がないことの代名詞となりました。この「進歩」の代償は資源不足、生態系の劣化で

あり、すべて地球規模の気候変動につながっています。

これは根拠のない主張ではありません。21世紀初頭、国連環境計画と国連食糧農業機関は、一流の研究機関の科学者や専門家約300人による世界的調査を委託し、5年後の2008年、「岐路に立つ農業」という報告書を発表しました。この報告書には、合成窒素やその他の肥料の使用量増加、地表水や地下水、殺生物剤などに関する多くの問題が概説されています。提出された報告書への署名を拒否したのは3カ国—オーストラリア、カナダ、アメリカ—だけでした。

「農村」を再評価する

貧困削減と栄養失調への取り組みを目的とした都市型産業・工場型農業モデルは、社会的格差の拡大、生態系の劣化、種子資源と知識の独占など、現在のところ惨憺たる失敗に終わっています。「農村の価値(Rural Value)」中心の開発モデルの利点を再評価する必要があるのはこのためです。

だからこそ、アジア学院のモットーが深い意味を持ちます。これは、インド国内また国外で私が責任を持ってきた様々な仕事での経験に基づいています。これらの仕事を通じて、

アジア学院で提供されているような、農場や研修施設を管理することを中心に据えた多文化研修の価値が徐々に分かってきただけでなく、このモットーの新しい解釈を見つけ、「農村」という言葉の新しい意味を発見する必要があることにも気づかされました。

今日の「農村社会」とは、後進的な人々を意味するのではなく、自然を大切にし、廃棄物を最小限に抑えようとしない消費者たちを意味するのです。地域の自然資源、再生可能な水、エネルギーを共同で管理することの価値を再発見し、自然からインスピレーションを得た多様な芸術や文化を味わうことを学ぶ必要があります。飲料水、肥沃な土壌、健全な公共空間をめぐる暴力的な紛争を起さずに、資源採掘を減らし、経済を活性化させることができるのは、小さな町や大きな村を中心とした社会への計画的な移行だけだと私は感じます。

従来の「農村」の意味は、「開発」(すなわち、快適なサービスや消費中心の生活様式)がまだ到着していない場所にすぎません。いわゆる都会的/進歩的な生活様式の代償として、教育、医療、交通、電力、通信、政策、意思決定、司法、国防システムのすべてを独占的にコントロールされることになると分かっているにもか

わらず、です。これらすべてが、経済のコスト、人間疎外、環境悪化のコストの全ての面において、日に日に高つくようになっていっています。

大気、水、土壌の汚染、森林、湖沼、河川などの重要な生態系の枯渇や劣化、農地の砂漠化、大規模な農作物の損失をもたらす地球規模の気候変動は、内戦や戦争のリスクをますます高めています。

そのため、現在求められている平和構築は、はるかに困難な課題となっています。アジア学院の職員は、気候正義と環境回復の原則、体験型・参加型の学習と計画のプロセスを理解するリーダーを育てるための、内容とプロセスの両方を再評価する必

要があります。また、農村開発における再生可能エネルギーの役割についても強調する必要があります。他の「農村」の価値観を重視する教育・研究組織と協力し、バーチャルな学習機会を設けることも検討すべきです。

翻訳：大柳由紀子(副校長・教務主任)

Profile



チャタジー氏とご家族。長女の阿部・チャタジー・マノシは学院職員

オルデンドゥー・チャタジー Ardhendu Chatterjee

1976年アジア学院卒業。
インド西ベンガル州で活動する開発調査コミュニケーションセンター(DRCSC)主事。
持続可能な資源管理とアグロフォレストリー、パーマカルチャーの専門家として、アジアの広範囲で教育活動、国際人道支援活動に当たる。著書多数。自然写真家でもある。



シエラレオネ

“アジア学院で自分が変えられたように、
村の女性たちを変えたいのです。”

Ami

アミナタ・コンテ
Aminata Contehシエラレオネ福音ルーテル教会
フィールド・オフィサー

アミが、地域の人々と共に活動する故郷の村々の未来について、特に女性のエンパワーメントについて語る時、彼女の目は情熱で輝きます。活動地の一つは複数の部族で構成され、多文化共生をはじめとする複雑な課題を抱えているなど、村によって状況は異なりますが、シエラレオネ福音ルーテル教会のフィールド・オフィサーとして、アミは共同体内の連帯意識を醸成する手助けをしています。

例えば彼女が関わる10の村では、シングルマザーや寡婦が多いことから、お互いを思いやることから生まれる相互扶助が有益であるという考えを広めています。また、農民に種子を購入するためのローンを提供する支援をするなど、農民が自立できるよう、農業の改善に力を入れたいと考えています。

一方、アミは農家でない人々に対しては、「もし資金があったら何をしたいか？」とヒアリングをします。意見に基づいて、その人の背景や事業の目的について詳細に調査し、村の貯蓄貸付プロジェクトがその人にとって本当に有意義か否かを見極めます。有意義だと判断すればアミは事業の立ち上げを支え、利益を毎週貯蓄口座に入金するよう指導します。また彼女は各事業主に定期的に助言し、長期的な計画を立てる手助けをしています。このような小規模ビジネスによって、学校に十分に通えなかった女性たちであっても、子供たちの学費を支払うことができるようになりました。

アミは、サーバント・リーダーシップと謙虚であることの重要性を強調します。「尊厳」の授業に感銘を受けたという彼女はこう言います。「意見の違いを認め、お

互いの貢献に感謝する。相手の良いところは評価し、悪いところはポケットにしまっておけばいい。」参加型学習の新しいスキルも大きな財産です。家庭内暴力や男性同僚からの否定的な対応の経験を授業で共有しました。女性たちが自らの権利をどう守るかという議論では、相手の男性が納得する言葉を慎重に選ぶことに着目します。アフリカの女性たちが自分たちの権利に対する意識や関心を高め、声を上げ、交渉する方法を教えたいて考えています。



ハイチ

“自分の価値が認められ、尊重されれば、
人はもっと考えを話してくれるでしょう。”

Pierre

ルイ・テア・ピエール
Louis-Taire Pierreハイチの会
農業コーディネーター

ハイチの食料自給率は大変低く、山岳地方では農民は慢性的に貧しい上に、農作物が不作になっても政府からの支援はありません。そうした状況の中、ピエールはベセスダ中央高原研修センターで農業を教え、また、送り出し団体が結成した住民家族共同体(KFPセンター)の農業コーディネーターも務めています。KFPセンターは、種子の供給、農業技術を教えることで農民を支援しています。

また、センターは3ヶ月に1度、臨時動物病院を開設し、農家は豚、牛、馬、ヤギ、時には犬や猫も連れてきて、ワクチン接種や寄生虫治療を受けることができます。ピエールは獣医師としての経験が豊富で、農家が抱えている問題や、最も重要な問題から取り組むための優先順位の付け方について話し合う場を設けています。農民たち

が互いに支え合う方法について意見を交わす場はとても重要と考えています。

2018年には、信用組合に似た連帯プログラムが始まりました。25の小さな村のグループで、毎週お金を集めて3%の利子で融資を行い、積み立てられた利息は年末にメンバーに分配されます。この融資によってサトウキビ栽培からの収益を上げることができた農民もいます。必要な機械を購入することで、サトウキビの糖蜜をより早く作ることができるようになったからです。

アジア学院に来る前、ピエールは優れたリーダーとは何か、有機農業のプロセス、コミュニティ開発の方法などを学びたいと考えていましたが、学院での食品の調理と加工実習は思いもよらない好機でした。一方で、有機肥料の作り方や自然の害虫駆除法などの技術

を学ぶだけでなく、人々の参加を促す鍵は一人ひとりの尊厳を認めることだと学びました。「アジア学院では、誰もが自分の役割や仕事を把握していますが、立場や地位でその人を判断することはありません。」「たとえ読み書きができない人でも考えはある。自分の価値が認められ、尊重されていることが分かれば、もっと自分の考えを話してくれるでしょう。」

フランス語とクレオール語を話すピエールにとって、入学当初は言葉は大きな障壁でしたが、友人たちの助けにより、今は自由に英語での会話を楽しみ、大いに学んでいます。

インタビュー・文

ジョイス・レイ
ボランティア

抄訳

佐藤 裕美
販売

ご支援に感謝いたします

2023年8月1日～10月31日（敬称略・順不同）

寄付金がアジア学院に入金された日に基づき掲載しております。入金日は、口座振替の場合はご決済の1ヶ月後、クレジットカードの場合は2ヶ月後です。



サポーター寄付
一般寄付
50周年特別寄付
クラウドファンディング
寄付者御芳名

【北海道】 Witmer Robert・ウィットマー圭子 朴美愛 三橋修 宮崎善昭【青森県】木村幸子【岩手県】佐藤真名 千葉尚子【宮城県】西村勉【秋田県】田中真【山形県】齊藤千恵子(学)基督教独立学園高等学校 荘内教会保育園 山形県戸沢村国際交流協会【福島県】川瀬安希 斎藤仁一 佐川真理子 櫻井淳司 杉原義雄 杉山雅英・典子 堀江信 松谷健司【茨城県】若田朗 遠藤桂 角田ひろみ 倉本衣織 小林徳朗 成島良幸 平野亜矢子 谷田部裕子(教)関東教区教会婦人会連合(教)水海道教会【栃木県】赤羽正美 阿久津啓司 芦田緑 新邦之 阿部真希子 阿部チャタジーマノン 荒川千衣子 荒川朋子 荒川萌 飯島恵子 飯塚仁美 池永尚久 井澤彩子 井澤聡 石井信子 今岡憲治 岩川靖子 岩澤佳子 植竹伸一 薄井暁美 内田ゆか 遠藤聖香 大久保允寛 大谷雅代 大柳綾子 大柳由紀子 小倉恭子 金森郁美 金子宗郎 川崎圭子 河田ゆり子 菊地敬子 菊地創 菊地雄二 吉川宗芳 木村裕子 熊倉百合子 栗原睦美 久留生利美 郡司いく子 後藤理都子 小鮎拓丸 小堀朋子 小山博子 近藤由実 坂入貴子 佐藤範明 佐藤由美子 佐原市郎 沢谷千亜紀 塩野玄機 塩水賢太郎 鈴木兼一 関根禎行 相馬純子 高見信子 田上聡・正子 田上利子 田上中 高谷千種 武智明美 立野匠 田中瑛子 田中淳子 田中順子 谷口敬吾 田村修也・暁美 delaPazRichelle 豊田剛久 長瀬美香 長山くるみ 西川峰城 丹羽寿美 丹羽芳雄 野崎威三 野田光子 長谷川恵子 長谷川隆明 林真智子 羽山弘一 原田明子 原田三恵子 原田由貴子 人見恵子 福本光夫 藤井さやか 藤井祐子 藤岡淑子 藤田カツノ 星功 堀光晴 増山律子 又木成美 松浦睦子 松岡佐知 三浦照男・孝子 三上潤 宮岡明子 武藤志志 村田榮 森山ゆかし 八木沢淳 八木沢弘美 安井武雄 山内紀子 山下崇 山下三奈 山根健太 吉際勝則 ZacivoluRhakho LichtenJack 渡邊茂子 渡部静子(一財)アジア農村交流協会(教)足利東教会(公財)あしぎん国際交流財団 西那須野幼稚園 家の教会しおん(公)宇都宮聖ヨハネ教会 宇都宮友の会 大田原国際交流会 小山聖泉キリスト教会 小山友の会(有)川田電気 国際医療福祉大学 学長 鈴木康裕 塩谷町古本フェアプロジェクト(カ)厳律シト一会 那須の聖母修道院 高野建設株式会社(キ)栃木教会 栃木県立宇都宮北高等学校PTA(教)栃木地区婦人会(教)那須塩原教会 那須塩原市国際交流協会 那須友の会(株)ナスハウス工業(株) 那須ワイズメンズクラブ(教)西那須野教会 西那須野ロータリークラブ ノイ・フランク アトリエ那須 ペンション・シャローム 星労務管理事務所 マ・メゾン光星 Minngos(教)矢板教会 立正佼成会 那須教会【群馬県】李元重 江村恵子 江村陽子 亀田瑠也 武井真知子 長谷川千恵 丸山一世 武藤陽一 森村登世子(教) 渡川教会(教) 高崎教会(学) 新島学園(学) 新島学園中学校・高等学校【埼玉県】東治子 池内清子 石田哲士 市原諭 茨木泰隆・公子 浮貝由美 梅澤智 大手明男・真佐子 角田富美子 榊澤幸雄 川口清子 河島清 北野啓子 GurungBishwaRaj 小林毅 鈴木俊之 そうまひかり 高橋秀之 武真人 千村雅信 戸井田紗耶香 細川敦子 柳原さつき 吉崎玲子【千葉県】石崎利夫 大島正太郎 太田賢 大谷光弘 奥田理恵 小関光二・征子 申鉦錫 小林裕美 竿代光信 佐久間健 佐藤朝子 佐藤伊一郎 佐藤豊美 関根子 矢口敏和・愛子 山崎尚子 山本宗子【東京都】浅尾治子 浅野典子 粟谷しのぶ 安藤彩子 市川創 伊藤毅史 犬塚靖子 岩切勉 ウィリアムズ郁子 植田栄基 上田真理 鶴崎創 内城節子 梅澤よよひ 角本邦久 鹿島國雄 加納貞彦 柄澤真理子 吉川久美子 吉川容 木全由規 久世陽子 栗山昌子 黒田俊介 郡恭子 小海光 小林元子 斉藤宣子 佐藤太助 佐藤真久 佐波吉男 重田康博 篠田快 篠田学 篠田智子 篠田真紀子 篠田レイ 清水威志 JulianRonald 白井昭子 須田松子 高野美恵子 高橋馨 竹野裕子 田坂興臣 田中淑子 桐瑞希子 土岐剛平 殿塚婦美子 中川草 中野昭子 中山善和 並木浩一 賛川治樹 林田祐季 坂内和典 平尾壽雄 FangYuan 福岡美佐子 古川文江 古谷恵美子 保高徹生 本田典子 牧甫 増田泰子 松田浩道 三井田純子 三宅章英 深山延暁 森哲也 焼山満里子 山崎玉美 山田貴司 山田正 山田泰久 山根正彦 横手靖彦 渡邊友香 渡辺幸信(教)阿佐ヶ谷教会 ウェスト 東京ユニオンチャーチ(教)牛込払方町教会 山ノ下恭二牧師(教)学生キリスト教友愛会(株)株式会社ひらく 川人法律事務所 国際基督教大学教会(株) CITABRIA(教)城西教会(キ)東京告白教会(公)聖オルバン教会(カ)聖コロンバン会(教)全国教会婦人会連合 世界教会運動委員会 全国友の会 中央部 東京南ロータリークラブ 東京ユニオンチャーチ 日栄国際特許事務所 日本キリスト教協議会(宗)日本基督教団(公財)庭野平和財団 農村伝道神学校(福ル)保谷教会(学)明治学院 明治学院中学校/東村山高等学校(公財)森村豊明会【神奈川県】山口直子 青木由希子 浅野康一 阿部恵 天野潤 天野捷一 荒井明子 池辺直人 石原美沙子 今川信夫 岩澤裕基 岩谷幸子 牛山泉

梅澤昌子 江頭真彦 海老根智仁 遠藤抱一 大石三枝子 大久保初紀 岡田裕美 尾崎久美 笠置正民 加山久夫 小暮修也 駒形朋子 サンソムすや 進宏一 仁田弘子 須田陽子 鷺見八重子 ティースマイヤ・リン 中村真依子 中本尚孝 生江史伸 東谷和代 洲上恭雅 BrownAudrey 堀江圭吾 本田忠行 武藤頼子 持田由美子 山田早苗 渡邊彰(公社) スコーレ家庭教育振興協会(学)横浜共立学園【新潟県】阿部チャタジ・シャントヌ 荒井真理 川村邦彦 成井大介【富山県】上山美樹 マクニル恵子【山梨県】田中耕太郎【長野県】青木栄作 久保新一 朴大信 由井和也 渡辺仁【岐阜県】宇野河 本紀子 佐藤亜弥美【静岡県】カリール・ユカリ 武井陽一 富永雪穂 松村岳史 山下清二 吉田幸子【愛知県】伊藤早苗 中野瑛子(株)チロウィーター(株) ハイチの会【三重県】小山萌愛 前村修佑【滋賀県】太田宜子【京都府】糸洲風音 上田祐未 櫻井鋭子 中神星乃 HermansenChristian 宮尾知子【大阪府】安達晴子 荒川伸二 大本和子 加治屋万尋 金石文興 金森有美 金森真緒 川俣茂 陳野友洋 塚本百花 野口栄治 林貞子 藤井元子 エキュメニカル・ネットワーク【兵庫県】貝元利江 黒田喜久子 柴田勉 島田恒 谷佐代子 豊留嘉代 林洋子 平尾享三 藤井三和子 森川正美 山本愛子 山本佳子 李善恵(公財)神戸学生青年センター(カ)善きサマリア人修道会【和歌山県】田尻忠邦・須賀子【鳥取県】陳野にこ 松本純【島根県】田中里奈(教)隠岐教会【岡山県】岡崎優子 山口教史【山口県】片山由美子【高知県】玉城秀大【福岡県】荒川淑 市津武文 中島菜々子【佐賀県】坂本元嗣 中川孝子 英語教室もと【熊本県】竹崎歩【大分県】鶴丹谷公代【鹿児島県】大谷ともよ【沖縄県】ラカー・アーロン・カウイ・カヴァイニ・オケオラ 小笠原春野 宮平洋恵(公)沖縄教区宮古聖ヤコブ教会【海外】木橋正則 ScheurenbrandVolker ScreationAlexander AFARI オランダ日本語書教会

寄付金実績状況	8月	3,857,285円
	9月	16,471,103円
	10月	1,805,706円
	合計	22,134,094円

(うち50周年特別寄付金 7,648,264円)

寄付金領収書について
 口座振替・クレジットカードでご寄付頂いた場合、所得税法により領収書の発行及び領収日は、アジア学院に入金された日とさせていただきます。

書き損じハガキ 寄付者御芳名

【北海道】久世そらち 下田尊久【宮城県】今野裕美子【山形県】原田俊二【福島県】太田澄子 木村昭一 堀江信(教)須賀川教会【栃木県】宇田美恵 梶山弘子 吉川妙子 小久保久子 近藤由美 沢谷千亜紀 JagoJay 諏訪嘉彦 瀧澤久恵 塚本美砂子 永井昌子 長瀬美香 中田康之 宮岡明子 小山友の会 臥龍会(キ)栃木教会(特活)民間稲作研究所(教)矢板教会

【群馬県】長谷川千恵(公)聖慰主教会【埼玉県】杉山伽奈 細川敦子 柳澤芳信【千葉県】尾藤梢・佐藤衛利子 福島由美 伏見陽子 千葉友の会【東京都】石山香世 木村はるみ 小谷野雅晴 鈴木隆 積田朋子 中里威 中村美果子 原美左恵 三井田純子 山田貴司(教)調布教会 天の魚出前プロジェクト(福ル)都南教会(教)南三鷹教会【神奈川県】秋山美知子 天野捷一 大井花子 松本栄子 山田早苗 横浜友の会【新潟県】森民男【静岡県】(キ)静岡池田伝道所【愛知県】加藤知子 林真史【京都府】MorimotoHermansenChristian【大阪府】合田隆史 林貞子【兵庫県】デルバ規矩子 森澤正明 山本佳子【熊本県】山本洋子【鹿児島県】興水正人 藤田はつほ

一品寄付 寄付者御芳名

【岩手県】酒匂徹【茨城県】成島良幸 目黒由美【栃木県】梶山弘子 柏谷礼子 久保田隆行 郡司いく子 郡司真理 近藤由実 高嶋幸雄 高村京子 瀧澤久恵 永井昌子 藤田カツノ 藤本和子 本多千枝 松澤安夫 棟形さつき 石崎果樹園 栃木県立宇都宮北高等学校(教)西那須野教会 ホームヘルパーステーション 椿寿荘【東京都】ArthursonDevon 内藤崇 山田貴司

YokokawaJoanna【神奈川県】岡田良仁・裕美 新村道子【岐阜県】山信彦【大阪府】藤井元子

(医)医療法人(医社)医療法人社団(学)学校法人(カ)カトリック(株)株式会社(教)日本基督教団(キ)日本キリスト教会(公)日本聖公会(公財)公益財団法人(公社)公益社団法人(財)財団法人(社)社団法人(宗)宗教法人(特活)特定非営利活動法人(パ同)日本バプテスト同盟(福ル)日本福音ルーテル教会(有)有限会社



「明日もみんなで「いただきます」」出版、そして原画展開催

アメリカ支援者のジョイス・レイさんが、アジア学院の生活を基に英語俳句を作り始めたのは、ボランティアとして滞在していた2018年のこと。この夏、それは一冊の絵本になりました。10月3日(18日)には大田原市のヒカリノカフェ 蜂巣小珈琲店にて原画展を開催。スーザン・ロックさんの優しい水彩画は立ち寄った多くの人を惹きつけ、ジョイスさんのトークショーも大盛況でした。この絵本を通して、国や年齢を問わず学院の精神が伝えられ始めています。

Live・Work・Laugh Together! (共生・共働・共笑)をテーマとした第51回収穫感謝の日が10月14日(土)に開催されました。1日だけとはいえ、人数制限のない開催は実に4年ぶりとなります。多くのお客様が来訪、また地元の中高生を中心としたボランティアの方々も参加し、久しぶりの大きなイベントとなりました。来ていただいたお客様にはとても満足していただけではないかと自負しております。

「収穫感謝の日」は、学院にとって年に一度の大きなイベントであるとともに、学生たちのリーダーシップ研修において重要な位置を占め、その準備・開催にあたって学生たちは大きな責任を持ちます。いかに期待されるイベントを準備できるか、どんな情報を集め用いるか、予算をどう立てどう使うか、それぞれの知識や経験をどう生かすか、クラスメートの皆の参加をどう促し奨励するか…。それぞれは簡単なことではないかという思いも、とてもいい経験であったという思いもあることでしょう。「大成功」だけを目的としない、学院のユニークな教育方針はそこにはあるのです。



大柳 由紀子 副校長 / 教務主任



第51回 収穫感謝の日 Harvest Thanksgiving Celebration (HTC)



前略、土の上より

進めていきたいと思っています。

「明日もみんなで「いただきます」」出版、そして原画展開催



櫻井 将伸 フードライフ(野菜・穀物)



夏ノ暑サニモマケズ：

年を経るごとに厳しさを増す地球温暖化の影響をものに受け、今年のアジア学院の夏はこれまでで経験したことのないような酷暑に見舞われました。春先に植え付けたジャガイモやイネ、暑さに耐性のあるサツマイモなどは例年通り、あるいはそれ以上の収穫を得ることができました。5月末に田植えをした後、水田内に放ったアイガモ56羽は、その後一羽も欠けることなく、イネの生育初期における雑草抑制という重要な仕事をきちんとこなしてくれました。しかし、8月半ば以降にタネを播いた野菜、とくにニンジンが発芽が揃わず、何度となく播種を繰り返しました。ニンジンの発芽には水が必要なのですが、夕方になって日差しが強いままで、懸命に水やりをしてもすぐに土が乾いてしまったのが原因だと考えられます。年々進行していく異常気象、これにもしぶとく対応すべく、栽培暦の見直しを進めていきます。



第51回 卒業式

学院での学びを活かし、地域の人々に仕える学生たちの門出を共にお祝いください。どなたでもご参加いただけます。

12月9日(土) 13:30~

場所 アジア学院コイノニア食堂

送迎 那須塩原駅発 12:30 アジア学院 15:30

クラファン第2弾

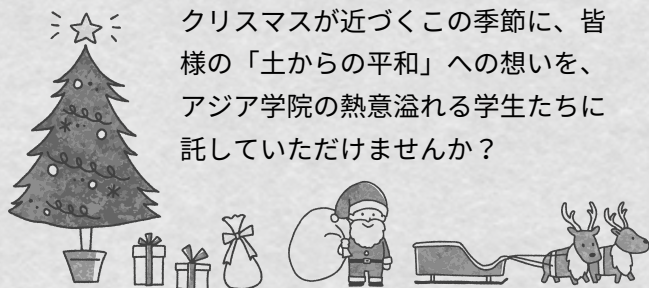
300万円達成!!

寄付総額：3,001,000円

寄付者数：96人

9月16日から10月31日までREADYFORにて行ったクラウドファンディング「#農村リーダーによりよい環境で学んでほしい。教育環境の整備にご支援を」は、皆様の応援により目標金額300万円を達成しました。今回頂いたご寄付は研修環境の充実の為に活用いたします。最後まで見守り、伴走していただきありがとうございました。

クリスマス特別献金のお願い



クリスマスが近づくこの季節に、皆様の「土からの平和」への想いを、アジア学院の熱意溢れる学生たちに託していただけませんか？

頂いた献金はアジア、アフリカなどの国々からアジア学院で学ぶ学生の渡航費や授業料、さらに寮費、食費など月々の生活費など奨学金として用いさせていただきます。世界各地の草の根の農村開発指導者として働く人材を育てるアジア学院の働きに、皆さまからのご支援をお願い申し上げます。

銀 足利銀行 西那須野支店(普通)
口座番号： 0112403
行 口座名義： 学校法人 アジア学院

ゆ 記号： 10700
つ 番号： 8002711
ち 口座名義： 学校法人アジア学院
よ

または「アジアの土」に同封の振込取扱票より

クラスメイトは アジア・アフリカの農村リーダー



2024年度日本人学生募集

願書受付期間は11月~2月まで。

毎月10日願書〆切。

応募方法はHPの「日本人学生募集」ページをご覧ください。

体験入学開催!

本場のカレー作りワークショップを通して
アジア学院について知ろう!

1月13日(土)

参加費 ¥1,500(税込)

申込締切 1月6日(土)

当日スケジュール
10:30 アジア学院集合
10:45 カレーワークショップ
12:30 昼食
13:30 キャンパスツアー
15:00 解散

長期ボランティア募集

3ヶ月~1年間、アジア学院の多文化コミュニティで英語を使いながら農的な暮らしをしてみませんか？農場に加えてキッチンやオフィスなど、様々な活躍の場があります。随時募集中！お申し込み方法はウェブサイトの「長期ボランティア」ページをご覧ください。

